

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10887001				
授業名	マクロ経済学	形態	講義	単位	2
担当教員	芹澤 高斉				
開講学期	2018年度 前学期	曜日・時限	水曜3限		
授業目的	短期、長期における一国の経済活動水準の決定について基本的な知識や分析能力を身につける インフレ・デフレ、失業などの経済問題を理解し、その解決策を、経済モデルを用いて提案できるようになる。				
授業内容	一国の経済活動水準の決定について理解するため、経済モデルの枠組みについて解説する。また、現実 に生じる経済問題について解説し、経済モデルを用いてそれらの解決策について考察する。				
到達目標	マクロ経済学の基礎理論を理解する。 マクロ経済におけるインフレ・デフレ、失業などの問題が発生する原因について理論的に分析できる。 マクロ経済モデルを用いて、財政・金融政策の有効性及限りを理解し、その含意を政策提言に結び付けることができる。				
ディプロマポリシーとの関連性	<コDP2-(1)> コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。				
授業形態	講義形式を中心に行う。授業内で理解すべきポイントを提示し、テキストを読み、質問に答えるなど、主体的な学修の基礎作りを行う。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学修、および2時間の事後学修を必要とする。したがって、15回の授業で、合計60時間の事前事後学修を必要とする。				
テキスト	芹澤高斉『基本マクロ経済理論』八千代出版				
評価方法	授業参加姿勢（リアクションペーパー・小テスト）、事後学習課題、および授業内で行う確認テストで総合評価する。				
評価基準	授業参加姿勢：30%、事後学習課題：30%、確認テスト：40%				
試験・レポート等のフィードバック	提出された課題や試験について、授業で解説を行う。				
注意事項及び履修条件	本授業では、「経済学概論A」の授業内容が理解できていること前提に進められる。このため、「経済学概論A」の単位を修得していることが望ましい。				
S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満					
第1回					
事前学習	シラバスを読み、「マクロ経済学」で学修する内容を理解する。				
授業内容	シラバスおよびマクロ経済学の学修内容を説明する。到達目標や評価基準について確認する。				
事後学習	テキストの「はじめに」を読み、授業内容を振り返る。				
参考文献					
第2回					
事前学習	テキスト序章を読み、経済学の基礎的概念について確認する。				
授業内容	マクロ経済のパフォーマンスを測るGDPという指標について理解する。またGDPをどう測るかについても理解する。				
事後学習	第2回の授業内容を振り返り、生産側面から集計されるGDPと支出側面から集計されるGDEについて簡単に説明する（400字）。				
参考文献					
第3回					
事前学習	テキスト第1章を読み、GDPを測る際に「在庫投資」がどのように扱われるか考える。				
授業内容	一国の経済的成果をどう集計するか、理解する。また、国民経済計算における「三面等価の原則」について理解する。				
事後学習	名目GDPと実質GDPの違いについて要約する（300字程度）。またGDPデフレーターについて説明する（200字程度）。				
参考文献					
第4回					
事前学習	経済において景気が良い時とはどのようなときか、考える。				
授業内容	財・サービス市場を分析して、国民所得がどのように決定されるかについて考察する。その際に用い				

	られる45度線分析についての理解が中心となる。
事後学習	事後学習課題として出された問題演習に取り組む。
参考文献	
第5回	
事前学習	経済において景気が良くないとき、政府はどのような対策をしているか、調べる。
授業内容	基本的なマクロ経済モデルである45度線分析を用いて、政府の政策について考察する。
事後学習	授業内容を振り返る。政府が行う政策として、政府支出の増加と減税の効果を比較する（400字）。
参考文献	
第6回	
事前学習	テキスト第3章第1節を読み、将来価値と割引現在価値について理解を試みる。
授業内容	割引現在価値の考え方を理解し、企業の投資行動について考察する。特に、利率と投資の関係を導出する。
事後学習	一国における投資が利率の減少関数になる理由を説明する（600字程度）。
参考文献	
第7回	
事前学習	テキスト第4章第2節を読み、貨幣の機能について理解を試みる。
授業内容	貨幣需要と貨幣供給について理解する。また、どのような仕組みで貨幣が供給されるかについて考察する。
事後学習	金融市場における信用創造機能と中央銀行の役割について説明する（400字程度）。これまでの授業内容を振り返り、次回の授業での確認テストに備える。
参考文献	
第8回	
事前学習	テキスト第5章第1節を読み、IS-LM分析がどのようなものであるか理解する。
授業内容	IS-LM分析について理解する。IS曲線とLM曲線を導出して、経済の均衡がどのように決まるかについて考察する。
事後学習	IS曲線とLM曲線の導出について、図を描いて整理する。そして、なぜIS曲線が右下がりの形状となり、LM曲線が右上がりの形状になるかについての理解を確認する。
参考文献	
第9回	
事前学習	政府の財政政策と中央銀行（日本銀行）の金融政策について調べ、どのような手段があるかを列挙する。
授業内容	IS-LM分析を用いて、財政政策と金融政策について考察する。また、それらの有効性に係る経済環境についての整理も行う。
事後学習	IS-LM分析を用いて、財政政策と金融政策の効果について、図を描いて説明する。その際、貨幣需要の利子弾力性と投資の利子弾力性が、政策の有効性にどう影響するかについてまとめる。
参考文献	
第10回	
事前学習	最近の物価の動向について調べる。
授業内容	総需要・総供給分析を用いて、物価水準がどのように決定されるかについて理解する。また、財政政策と金融政策の有効性について考察する。
事後学習	総需要曲線と総供給曲線をそれぞれ導出する。また、総需要総供給分析を用いて、物価水準の決定について図を描いて説明する。
参考文献	
第11回	
事前学習	経済成長の要因について考える。
授業内容	経済成長を要因別に分解して、その寄与を示す成長会計について理解する。また、日本の将来の経済成長の見込みについて考察する。
事後学習	日本の労働人口成長率、貯蓄動向を調べて、長期の経済成長について予測する。
参考文献	
第12回	
事前学習	企業の利潤最大化行動について復習する。
授業内容	新古典派経済成長モデルについて、その理論構造と長期均衡について理解する。
事後学習	新古典派経済成長理論について図を用いて説明する。また、第8回からの授業内容を振り返り、次回の

	授業の確認テストに備える。
参考文献	
第13回	
事前学習	国際収支統計について復習する。
授業内容	国際収支統計と為替レートの決定について理解する。購買力平価と金利平価で、為替レートの決定について考察する。
事後学習	購買力平価説と金利平価説において、物価と利子率が為替レートの決定にどうかかわるかを整理する。
参考文献	
第14回	
事前学習	IS-LM分析による国民所得の決定を復習する。
授業内容	IS-LM分析を拡張した、マンデル＝フレミングモデルについて理解し、国際均衡について考察する。
事後学習	マンデル＝フレミングモデルにおける均衡を、図を描いて整理する。
参考文献	
第15回	
事前学習	IS-LM分析の財政政策と金融政策の効果を復習する。
授業内容	マンデル＝フレミングモデルを用いて財政・金融政策の効果について考察する。
事後学習	これまで学修した内容を振り返る。
参考文献	

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><コDP-2> 【コミュニティ政策学分野における知識・技能・態度】 コミュニティ政策学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域がもつ課題の解決にあたる意欲、能力を身に付けている。</p> <p><コDP2-(1)> コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。</p> <p><コDP2-(2)> 講義科目で学んだ専門的な知識とサービスラーニング活動を通じて得た実践的な経験を統合し、課題解決に必要な知識や技能を身に付けている。</p> <p><コDP2-(3)> 地域社会の多様な場において、コミュニティ形成の中核を担う職業人としての態度・志向性を持っている。</p>
-----------	---